梅だより

～午後のひととき～

LIBRARY
SHOKEI GAKUIN COLLEGE
図書館広報誌　　2006年3月
第19号

本学の先生方に影響を受けた本、感銘を受けた本、学生に奨めたい本を紹介していただいています。　今回は人間心理学科の高橋真先生、生活創造学科の久慈るみ子先生に紹介していただきました。

高橋　真　先生

私が特に感銘を受けた本は、アメリカの経済学者のジョン・ケネス・ガルブレイスの『ゆたかな社会』（岩波書店）と『新しい産業国家』（河出書房新社）です。経済学の標準的な教科書では、自由競争のもと需要と供給の調整の結果として価格決定がなされると説明されています。しかし、私が感じた現実の経済は、ごく少数の巨大企業が価格決定を行い、消費者の意思が価格に反映されているとは思えなかったのです。そのような私の疑問を明快に解き明かしてくれたのが、この 2 冊の本でした。その意味では、経済学の面白さを教えてもらった本です。

ところで、「経済学者の数だけ経済学がある」といったのは、イギリスの経済学者ジョーン・ロビンソン女史です。彼女の言葉どおり、いま経済学は百花繚乱の状態です。丸尾直美『経済学の巨匠』（生活情報センター）は、さまざまな経済学物語に出会える本として、また辞書としても使える本です。また、ロバート・ラッセン『インビジブル・ハート』（日本評論社）は、女性に人気の恋愛小説ですが、経済小説でもあります。さらに、1994 年ノーベル経済学賞を受賞したジョン・ナッシュの生涯を扱った作品で、映画化されてアカデミー賞作品賞他を受賞した『ビューティフル・マインド』（新潮社）もお勧めの 1 冊です。

久慈るみ子　先生

＜影響を受けた本＞

1.『暑さ寒さと人間』O・G・エドホルム　佐々木隆訳　朝倉書店　1980 年

生理学の立場からみた温度と人間の関わりあいについての入門書（1978 年）。英国の国立生物学研究所が時流にかなった話題を、研究法に重点をおき、より理解を深めたい読者のために参考書のリストを精選し、可能な限り実用上の示唆を与えるように工夫したシリーズの中の一冊です。大学院在学時に読み、自身の研究テーマの面白さを再確認したことを思い出します。

2.『シャーロック・ホームズ　シリーズ』　コナン・ドイル　新潮文庫

最初に手にした『緋色の研究』から、とにかくのめり込んでしまって、次々に手にしたことが思い出されます。活字好き・推理好きに陥るきっかけになった本です。

3.『汗の話』久野　寧　光生館　1981 年

初版は 1963 年で、大学の図書館で読み、勤務してから購入しました。当時、汗についての世界的第一人者であった著者が、タイトルどおり「汗」について、ありとあらゆる角度から研究調査した結果を一般向けにまとめたものです。

＜学生に薦めたい本・好きな本＞

4.『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・L　カーソン　新潮社　1996 年

化学薬品による環境問題にいち早く警鐘を鳴らした生物学者レイチェルの遺作です。とにかく、手にとってページを開いてほしい本です。自然の持つ優しさ、神秘性などを感じられる、そういう人間でいることの大切さが伝わってきます。

5.『御宿かわせみ』　平岩弓枝　文芸春秋

江戸時代末期を舞台にした、人情捕り物帖。20 年以上続いているシリーズものです。何度も繰り返し読んでいるのですが、言葉遣いがとても好きです。「春風駘蕩」という言葉を覚えたのもこの本からです。

著作権について

図書館の資料をコピーしたいという時　所定の用紙に記入しなければならないとか、資料の一部分を一部しか自分用としてコピーできないとか、図書館の資料しかできない等の制約があることは、2 年間図書館を利用してきた卒業生の皆さんはよくご存知と思います。
視聴覚資料に至っては、DVD やビデオのほとんどが館内の AV ブースでの鑑賞だけで貸出しは出来ないと言われたことと思います。
これらの話はすべて著作権法に従った上の図書館の利用形態です。
DVD やビデオを貸出する図書館はあると思いますが、これらは著作権料が課金されているものです。
ベストセラーを複数揃えた公共図書館が著作者から抗議を受けたり、音楽配信に不正アクセスして無料でダウンロードする人に刑事罰が適用されたという話を聞いたことがあると思いますが、これらはすべて著作権にかかわるはなしです。
学校生活だけでなく、身近な日常生活にも関わることなので著作権に対する意識はますます高める必要があるでしょう。

図書館からのお知らせ

- **春休み中（４月７日まで）の図書館の開館時間は　午前９時～午後４時**
- **学外からのOPAC（蔵書検索）へのアクセスは**
  URL http://www.shokei.ac.jp からどうぞ
- **卒業生は本学図書館の利用ができます**
  貸出冊数２冊　　２週間　　無料です
- **４月から雑誌の貸出はできなくなります**
  閲覧、コピーのご利用　だけになりますのでご注意ください

今年の貸出の傾向

最多貸出は例年通り学習用図書『市販加工食品成分表』でしたが、2 位は江国香織の『東京タワー』（2002 年刊）という結果が出ました。3 位以下は同位が複数冊です。
圧倒的に学習用、調査用、研究用の内容の図書が多く貸出されていますが、その中に人気作家の小説が多く読まれたというのが今年の傾向と言えそうです。因みに前述の江国香織の作品は 10 位内に 4 冊も入っていました。「梅だより」17 号 2005 年 6 月刊でご紹介した本学の秋月高太郎先生の著書『ありえない日本語』（ちくま新書 2005 年刊）は 10 位であったこともご報告しておきます。